

中学道徳

3

きみが
いちばん
ひかるとき



光村図書

「尊厳死」という言葉を聞いたことがあるだろうか。「尊厳死」とは、人間としての尊厳を保って死を迎えること、また、迎えさせることをいう。しかし、「人間としての尊厳を保って迎える死」とは、どのようなものなのかということについては、さまざまな考え方が存在する。医療技術の進歩による一つの考え方としては、「尊厳死」とは、患者の望まない、死期を単に引き延ばすためだけの延命措置をせず、自然な死をもたらすことを指す。例えば、人工呼吸器をつけなかったり、栄養補給を開始しなかったりすることが、それに当たる。

次に、新聞の投稿欄に投稿された「尊厳死」を巡る考え方の一部を紹介する。

祖父に感動 尊厳死反対

私は先日、学校の社会の授業で尊厳死や安楽死について学びました。今、日本では尊厳死を認める法律はありませんが、外国では認める国もあるそうです。

私は昨年、祖父をがんでなくしました。明るかった祖父がだんだんやつれていってしまい、きっと想像以上の苦しい思いをしているのだと思いました。でも祖父は最期まで一生懸命生きていました。だから、私は安易な尊厳死には反対です。

いくら苦しくても、自分から死ぬというのはあってはならないと思います。私は祖父が苦しんでいたとわかっていても、「楽に死んでいってほしい。」とは思いませんでした。

きっと、私以外の家族も皆そうだったと思います。私は最期まで生き抜いた祖父を誇りに思います。だから、尊厳死というものはあるべきではないと、私は思います。

中学生 十五歳

尊厳死賛成 意思尊重を

中学生 十五歳

僕は、尊厳死に賛成です。誰が何を言っても本人の意思で決めたことなのだから、それを尊重するべきだと思います。人がなくなるのは、とても悲しいことです。しかし、いちばんつらい死を覚悟した人の意思を、他人がどうこうできるものではないと思います。

尊厳死にいちばん反対するのは、親や家族でしょう。自分のおなかを痛めて産んだ子など、家族を死なせたくない、という気持ちは誰も同じだと思います。

それでも、（助かる見込みがなく、死期の迫った患者が）本人の判断で死を選んだ人の意思は尊重してあげるべきです。家族だからこそ受け入れてあげるべきだと思います。とても難しい問題ですが、人間には自己決定する権利があります。

自ら決めた最期は立派

会社役員 六十五歳

「祖父に感動 尊厳死反対」との中学生の投書に心動かされました。なくなられたおじいさまが尊厳死を選ばずに、最期までがんと闘ったこと、本当に立派だったと思います。

人の最期は、それぞれの人生観に根ざしていると思います。終末期とはいえないのに途中で命を投げ出す「安楽死」はもつてのほかですが、諦めずに病氣と闘い抜く考えを貫く人もいます。いっぽう、どんな治療を施しても助からず、死期が間近なのにチューブにつながれて生き続けることに嫌悪感を抱く人もいます。

尊厳死か、闘い抜くか。どちらも最期を自分の意思で決めるという点では立派だと、私は考えます。